



① 大東清掃センターは稼働してから19年が経過／② 大東清掃センターの中央制御室。ここで焼却炉内部などに異常がないかを確認している／③ 集じん器や活性炭などを使って排ガスをきれいにしている。これらの装置の維持費にも多額の費用がかかる。写真は大東清掃センター

効率的な処理施設が必要

このようにごみ処理には多額の費用がかかっていますが、今ある2施設を一つにするだけでも処理費用を大幅に減らすことができます。そのためには、効率的にごみを処理できる新しい施設を作ることが必要です。

新しい施設とは

一関地区広域行政組合が想定している新たな焼却施設は、環境への負荷を抑えながら熱エネルギーを有効活用できる「エネルギー回収型一般廃棄物処理施設」です。この施設は焼却熱を利用して発電することで、ごみ処理費用を削減したり、余った電気を他の公共施設に供給することもできます。

新施設のように、ごみを燃料にして発電する仕組みは全国ではすでに主流になっています。例えば焼却施設の余熱や発電した電気を利用する施設をごみ処理施設に併設して、住民の健康づくりに活用している自治体もあります。

新施設の規模は敷地面積2畝、1日当たりの処理能力が105トンを予定しています。敷地の造成や施設建設にかかる概算事業費は89億円を見込んでいます。排出されるガスについても



稼働から37年経過した一関清掃センター。毎年多くの維持管理費用がかかっている

Interview

町のごみ処理への対策などについて話を聞きました。

町民福祉課
Sugawara Katsuyoshi
菅原克義 課長



リサイクルすることが大切

町では一関地区広域行政組合とともにごみ処理対策に取り組んでいます。ごみを減らすためには、焼却するごみを減らして、資源化できるごみをリサイクルすることが大切です。町では毎年ごみの分別講習会を実施し、町職員が地域に出向いて、分別で間違いやすいものや注意点などについて説明しています。希望する地域は、ぜひ町民福祉課へご相談ください。

国の環境基準よりさらに厳しい基準を設け、騒音・悪臭などにも配慮された施設になります。

新しい最終処分場が必要

ごみ処理施設で焼却などの処理をしても、ごみが全て消えるわけではありません。その灰は残ります。また焼却できないごみは破碎や圧縮などの中間処理はされますが、これもそのまま残ってしまいます。

そしてこれらを最終的に埋立処分するのが、最終処分場です。現在一関市・平泉町地域には、花泉清掃センター、舞川清掃センター、東山清掃センターの3カ所の最終処分場があります。しかしこれらの場所は、あと数年で満杯になってしまうため、新



舞川清掃センター最終処分場

たな最終処分場の確保が必要となります。

一関地区広域行政組合では、新しい最終処分場の建設候補地の選定を開始します。選定の経過については、同組合のホームページ(<http://www.city.ichinosaki.iwate.jp/kouiki-gyousei/>)などで公表していきます。

chapter 1 ごみが抱える問題

家庭ごみを焼却している一関清掃センターと大東清掃センター。これらの施設には、毎年多額の維持管理費用がかかっています。施設の老朽化も進む中、私たちにできることを考えてみましょう。



壁のレンガが損傷した焼却炉本体内部

清掃センターの現状

一関清掃センター（一関市狐禅寺）と大東清掃センター（一関市大東町）では、平泉町と一関市の家庭から出る「燃えるごみ」を焼却処理しています。

一関清掃センターは、昭和56年に稼働を開始して、すでに37年排ガス高度処理施設整備後16年）が経過しています。大東清掃センターについては稼働してから19年が経過しています。

施設の老朽化が進んでいるため、維持にかかる費用は年々増加しており、両施設合わせて毎年数億円の維持管理費用が必要な状況です。近年では、緊急の修繕も増えつつあり、今後も費用は増大していくものと見込まれています。